

人文社会科学部 2 年

## Museum Sonobudoyo

### ○博物館の概要

ジョグジャカルタでは 1 番大きな博物館。2 つの建物があり、古い建物には部屋が 12 個ある。1934 年に建てられ、1935 年に開館した。新しい建物は 6 階まである。2023 年に建てられ、2024 年に開館したばかりである。



### ○ロブロロニョ(左)

お米の神様と旦那様の夫婦の木彫り人形のこと。外側にはウコンが塗られており、黄色い。豊作や子孫繁栄、夫婦円満などの願いが込められている。

### ○銅鼓(右)

moko と呼ばれる太鼓のような楽器。雨乞いに用いられていた。2 世紀に北ベトナムからインドネシアにもたらされた。moko はインドネシア東部で今でも使われている。結婚するときに男性が女性に贈る。新しいのではなく、両親から受け継いでいく。日本の嫁入り道具に桐箆箆を持っていくのと近いものを感じた。



○メンヒル(左)

細長い巨大な石。上部が顔のようにになっている。石の前で祈るようになった。



○中国の陶磁器(右)

6世紀～9世紀の古マタラム王国時代に中国から買ったもの。たくさんの外国人と貿易していた。陶器のほかにもシルクなどを買っていた。



○kotak peripih(左)

カバーを開けると中には穴が 9 個ある。シヴァ神を真ん中に他の神様が周りを回っている。ヒンドゥー教では王様がなくなると、墓を建てた。このペリピは墓の 1 番下に置かれていた。王様の体は焼いて、灰は海に流す。そのかわりペリピには髪の毛やアクセサリーといった王様のものを入れていた。

○materai tablet(右)

供物やお守りとして用いられていた。スタンプのような役割を果たしていた。



○ジュリアベペル(左)

12 の星座のシンボルが描かれている。

○Cangkha(右)

磨いて使われていた鏡。



○ランプ(左)

ココナッツオイルを入れて火をつける

○otalam(右)

8~10世紀に儀式用(神様への供物を置くため)として使われていたおぼん。繁栄や幸福のシンボル。



○ダカラサン(左)

ボルブトゥールと同じで、8世紀に建てられた仏教遺跡にあったベル。遺跡で発掘された。

○ムスクの形(右)

ジャワの文化とヒンドゥー教の文化の影響を受けて、今の丸いムスクの形とは少し違っていた。



○ガムランとワヤン

- ・ガムランは大体 20 人くらいで演奏される。
- 全体の名前がガムランであり、楽器にはそれぞれ別の名前が付いている。
- ・布の後ろでも横からでもワヤンを見ることができる。



- ・いい人のワヤンと悪い人のワヤンがある
- ・悪い人のワヤンは赤い(怒りやすい)、上を向いている、目が小さい(バリは目が大きい)
- ・いい人のワヤンは下を向いている



•ロミオとジュリエットに似たラブストーリーやキリストのお話、中国の伝説など様々な種類がある。



○シンボル(左)

お米を取りたい、結婚の日、大事な商談などはシンボルをみて良い日を決める。日本のカレンダーに書いてある大安や友引のようなものと少し似てると感じた。

○図書館(右)

この博物館にはオランダ語で書かれた本も多く所蔵されている。



### ○バリとの違い

同じインドネシアでも、バリとジョグジャカルタでは文化の違いがある。例えば、バリのお坊さんは3つのレベルに分けられるが、それが無い。